

第 18 回小学校英語教育学会（J E S）長崎大会スタイルシート

◆以下の要領に沿って発表要旨をお書き下さい。なお、行間などのこの他の詳細は必要に応じて本文書の 2 ページ目と 3 ページ目をご覧ください。また、4 ページ目の見本も適宜ご参照ください。

14 ポイント、MSゴシック、中央揃え → **タイトル**

12 ポイント、MSゴシック、中央揃え → **サブタイトル**

11 ポイント、MS 明朝、右揃え。 所属の括弧は全角。 複数発表者の場合は中黒「・」で区切る（多人数の場合、複数行にわたることも可）

↓
氏名（所属）

キーワード： ← 11 ポイント、MS 明朝、左揃え、3 つ、各 10 文字まで、1 行に収める

1. 研究の目的

2. 研究の方法

3. 結果

4. 結論

発表要旨はこの枠に収まるようにお書き下さい。なお、枠は印刷時には表示されません。

本文と参考文献：11 ポイント、MS 明朝、左揃え

参考文献の前に空白を 1 行入れる

参考文献

この他の設定（設定は変更しないでください）

- ・ 1 行あたりの文字数：40 文字
- ・ 行数：37 行
- ・ 余白：上 35mm
下 25mm
左 30mm
右 30mm

フォントや行間などの詳細

- ・以下がテンプレートに登録されているスタイルの詳細です。
- ※テンプレートの余白の設定は変更なさらないようお願いいたします。

記入箇所	フォント	サイズ	位置	段落・行間など	
タイトル (発表演語にあ わせる)	日本語：MS ゴシック 英語：Century	14 ポイント	中央揃え	段落前	0 行
				段落後	0.5 行
				行間	固定値 24pt
サブタイトル (発表演語にあ わせる)	日本語：MS ゴシック 英語：Century (半角)	12 ポイント	中央揃え	段落前	0 行
				段落後	1 行
				行間	固定値 14pt
氏名 (所属)	日本語：MS 明朝 MS P 明朝厳禁 英語：Century (半角)	11 ポイント	右揃え	段落前	0 行
				段落後	0 行
				行間	1 行
キーワード (3つ/1つにつき 最大10文字)	日本語：MS 明朝 MS P 明朝厳禁 英語：Century (半角)	11 ポイント	左揃え	段落前	0.5 行
				段落後	0.5 行
				行間	1 行
要旨・参考文献 (要旨と参考文 献の間は1行あ ける)	日本語：MS 明朝 MS P 明朝厳禁 英語：Century (半角)	11 ポイント	左揃え	段落前	0 行
				段落後	0 行
				行間	1 行

- ・表を入れる場合
 - 1) 文字の大きさは8ポイント以上11ポイント以下にしてください。
 - 2) フォントは「要旨・参考文献」に準じたものを使用してください。
- ・図や写真を入れる場合、要旨の部分に埋め込んでください。また、枠に収まるような大きさにしてください。

・なお、Windows用 Word 2007/2010/2013には書式を自動的に整える機能がありますので、よろしければお試しください。手順は以下の通りです。

1. テンプレートの枠内にタイトル、(必要に応じて) サブタイトル、氏名・所属、キーワード、発表要旨・参考文献を入力 (または別のファイルからコピーして貼り付け) します。
2. スタイルを設定したい箇所にカーソルを持っていきます。そして、「Ctrl」「Alt」「Shift」「S」を同時に押すと画面右側に「スタイル」メニューが表示されるので、その中から適当なスタイルを選択します。例えば、タイトルの箇所にカーソルを合わせ、スタイルの中から「タイトル」をクリックすると自動的にタイトル用の書式が設定されます。以後、この操作を繰り返します。

電子黒板を活用した参加型読み聞かせ

—小学校高学年児童のための読み聞かせの条件—

キーワードは3つ。
1つにつき最大10文字
で1行に収めて下さい。

所属は「〇〇大学/△
△市立△△小学校/
〇〇大学大学院」のよ
うに表記して下さい。

塩井 博子（宇都宮大学大学院，栃木県宇都宮市立上戸祭小学校）

渡辺 浩行（宇都宮大学）

キーワード：読み聞かせ 児童参加型 電子黒板

1 研究の目的

発表要旨の本文は、キーワードの下の行（上から6行目あたり）からお書き下さい。

本研究は、高学年児童の読み聞かせについての研究である。電子黒板活用により、従来十分にできなかった児童参加が図れるかどうか、児童の学習意欲とインタラクションを高めることになるかどうかについて調べてみた。

2 研究の方法

実験群（6年3組）と統制群（6年2組）で授業（1単位時間）を実践した。前半25分に以下の方法で映像を流し、授業者が読み聞かせをし、調査分析を行った。

使用教材 BBC Schools 「The Butterfly Tail」

<http://www.bbc.co.uk/schools/laac/story/sbi.shtml>

使用機器 ・実験群…電子黒板 ・統制群…50インチテレビ

調査分析 ・アンケート（情意面）および発話分析（発話数及び発話内容）

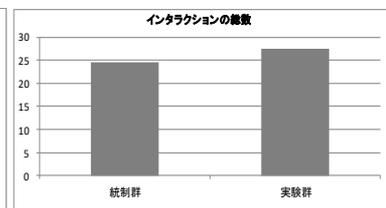
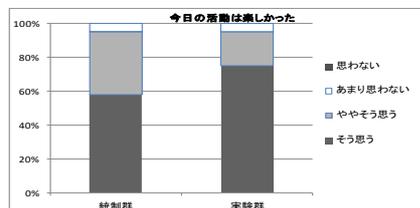
3 分析結果

以下の結果が得られた。なお、その他の分析結果も含め、具体的には発表当日に示すことにしたい。

- ① 電子黒板で可能なインタラクティブな読み聞かせは、児童の学習意欲の喚起にかなりの効果を発揮する。同様に、物語の内容理解を助ける効果も少なからずある。
- ② 電子黒板で可能な双方向のやりとりを意図的に行うことは、児童の発話促進に効果がある。その結果インタラクションの回数が増えると考えられる。

4 課題

学級や児童の実態も影響するため、実験授業では分析結果に限界があることは否めない。今後、電子黒



板を活用した同様の読み聞かせを複数の学級で実施し、継続的なデータを取り、さらに効果を実証していく必要がある。

要旨と参考文献の間は1行あけてください。

参考文献

萬谷隆一(2009)「小学校英語活動での絵本読み聞かせにおける教師の相互交渉スキル

に関する事例研究」『北海道教育大学紀要教育科学編』 第 60 巻第 1 号. pp.69－80